

原が続いている。右手スラブ帯にローソク状の岩塔が現われ、これを過ぎたあたりから、沢幅も狭まり、滝がかかるようになる。

2段10m滝は、左側壁に残されてあったバーケンを使って通過。これ以降は5～6mの釜を持った滝が出てくるが、高捲き3回で通過する。

ビパーク地は、右俣の出合、舌状に出張った台地に求める。ビニールシートの小屋掛けがあり、大鍋がある。春先のゼンマイ小屋だろうか。あたり一面ワラビが茂り、ワラビ畑のようである。

7月15日 ワラビ平(7:00)→左沢出合(7:30)→黒いナメ滝(8:35)→稜線(9:25)
→貉ヶ森山(9:55)

夜半に雷雨。テン場下の支沢には、鉄砲水が出た跡が残っていた。7:00遡行再開。左俣に入る。30分程で右沢出合。右沢は貉ヶ森山頂あたりから流下してくる。水量も少なくなり、階段状、トイ状、ナメ状の滝が続き、高度を上げる。最後は貉ヶ森山からのびる稜線に出、ヤブこぎ30分で山頂に立つ。山頂から林道までは、登山道が続いていた。

雪渓と泳ぎを覚悟(期待)してきたが、スノーブリッジの崩壊跡が1カ所みられたのみであった。ザイルを出すこともなかった。(記・ノ)

滝沢川源流右俣左沢 1990年8月25日

し 郎

鹿村三条から大石田沢にそってのびる林道に車を進める。県境を越えて新潟県に入り、大久蔵林道分岐手前の広場にパーク。今日の行程は滝沢川源流である。右俣左沢を下降して左俣左沢を遡行の予定。そのためにも、まずは貉ヶ森山を目指す。貉ヶ森山へは新しく刈り払いの行われた踏跡が続いている。一昨年大石田沢を遡行した時にはなかった刈り払いである。昔の古い道が復活して上々の登山道と変わっている。30分とかからずに1等三角点のある貉ヶ森山山頂へ。

山頂で滝沢川源流部の地形を偵察したが、樹木のためによくわからない。とにかく下降にかかろうと、まずは滝沢川と大石田沢を分ける尾根上の踏跡をたどる。この踏跡は15分ほどでおしまいとなってしまう、いよいよやぶこぎで右俣左沢の源頭を目指すことになる。踏跡の終点から低い方へ低い方へとたどる。10分程で目的の沢にでた。沢といっても、このあたりは小さな窪みにすぎない。

2mほどの小滝を3つクリアして下ると、左岸から倍ほどの水量を持つ小沢

